

国語科学習指導案【第2学年】

- 1 日時 令和6年11月1日(金) 1校時
- 2 学年 第2学年(5名)
- 3 単元名 にごお絵カードでしようかいしよう
「みきのたからもの」

4 単元の目標

- (1) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
〔知識及び技能〕 (1)ア
- (2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
〔思考力, 判断力, 表現力等〕 C (1)エ
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力, 人間性等」

5 単元で取り上げる言語活動

登場人物の表情を具体的に想像することで物語の面白さに気付き、想像したことを似顔絵カードにかいて物語を知らない人に伝える。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア)	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C (1)エ)	①粘り強く場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして似顔絵カードを書こうとしている。

7 単元について

(1) 教材観

本教材は、小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 国語編第1学年及び第2学年〔知識及び技能〕(1)「ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。」及び〔思考力, 判断力, 表現力等〕C読むこと(1)「エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」に基づいて設定するものである。

本教材は、みきと未知の宇宙人ナニヌネノンとの交流や、その後のみきの様子が描かれている。交流の場面では、「見つめました」や「見上げて」など行動を表す言葉が多く使われており、具体的なことを伝える働きが言葉にはあることに気付くことができる。また、登場人物同士の交流の場面やその後の場面の叙述を基に、その時の表情や行動の理由を考え、つなげて読むことで、初めは緊張していたみきが徐々に心を開いていき、大切な思い出ができたことや、関わりを通して未来への夢や希望をもったことなど、場面の様子や登場人物の行動を想像することに適した教材である。

(2) 児童観

令和5年度標準学力調査の結果は以下の通りであった。

	読むこと	物語を読みとる (構造と内容の把握)	物語を読みとる (共有)	言葉の学習 (語彙)
クラス平均正答率	90.0	100.0	60.0	100.0
全国平均正答率	65.4	71.7	44.1	79.9

本学級の児童は、観点「読むこと」で全国平均を上回っている。内容別で見ると、文学的な文章の構造と内容の把握の問題は全国平均を上回っているが、共有の問題では正答率が低く、問題の内容は、中心人物の考えを選択するものであった。問題を分析すると、中心人物が考えていることと対人物の様子とを結び付けることができていなかったため、ふさわしい叙述を見つけ出すことがで

きなかった。このことから、児童が登場人物の様子を具体的に想像する上で、物語の中のどの場面のどのような様子と結び付けて読むかを明らかにすることに課題があると考えられる。

2年上「スイミー」を学習した時には、児童は「真っ黒」と「黒」を比較したり「だれよりも」があることの意味を考えたりするなど、様々な言葉に着目することで登場人物の様子を具体的に捉えていった。そのことによって、言葉には具体的なことを伝えるはたらきがあることに気付くことができたと考える。しかし、児童自らが言葉に着目して考えるまでには至っていない。具体的に想像するための手立てとして、登場人物の吹き出し絵本を作った。教科書の叙述とつなげて想像したことを吹き出しに書こうとしていたが、教科書の叙述をそのまま引用したり、「すごい」「大きい」などの短い言葉でしか表現できなかつたりした児童も見られた。動作化する時に行動の理由を考える発問をすることで、表情や口調を考えながら想像を広げて文章を読むことにつながった。また、児童が書いた吹き出しを全体で交流する時間や交流後に書き加える時間を設けたり、単語だけを書いている児童に補助発問をしたりすることで、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力を身に付けようとしているところである。

(3) 指導観

① 育成したい資質・能力を明確にした単元構想

「そうぞうしたみきのひょうじょうを、にがお絵カードでしようかいしよう」という言語活動を設定し、「みきのたからもの」を読んで好きなどころを選び、叙述と結び付けて想像したことを吹き出しに書いたり、そのときの中心人物の表情を描いたりする。登場人物の表情を想像することで物語を読み深めていくことや、想像したことを、物語を知らない人に紹介するという学習の見通しをもたせる。また、単元の始めにかかせた似顔絵カードと、これまでに作成したカードの中から選んだものを比べさせることで、児童が自分の学習の深まりに気付くことができるようにする。

「言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く」ことに関して、本単元では、様子を表す言葉に着目する学習で会話文だけを取り上げる児童が想定される。そのために、「見つめる」と「見る」などの違いを比べさせて考えさせる。また、着目した言葉には、どんな意味があるのか、どんな時に使うかなどを考えさせ、実生活と関連させる工夫を行う。単元の最後には、児童自らが言葉に着目して考えることができるように、言語活動の似顔絵カードには、どの言葉に着目したかを書く欄を設ける。

次に、「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する」ために、似顔絵カードを作成させる。似顔絵カードには、「みき」の表情イラスト、表情の根拠とした叙述、イラストにかいた表情の言葉での説明、その表情の理由を記入させる。場面ごとに似顔絵カードを作成することで、物語の展開に即して場面の様子に変化していることについて児童が理解するとともに、叙述を基に、登場人物の行動を具体的に想像する力を身に付けさせることをねらう。物語の挿絵には描かれていない表情を想像しようとする、必然的に叙述を頼りにしなければならない。音読や動作化、児童同士の交流なども行いながら、基にした叙述を明らかにした上で「みき」の行動を具体的に想像し、似顔絵カードを作成させる。

② 思考の方法の活用

思考の方法については、【比べる】を活用する。比べる対象としては、3つある。1つ目は、言葉同士を比べることである。「見る」と「見つめる」の違いを比べて考えるなど、言葉に着目することで登場人物の様子を具体的に想像するための手立てになると考える。2つ目は、表情を比べることである。単元を通してみきの表情を具体的にイメージさせる。その際に、どの叙述と結び付けたのかを友達と比べることで、物語の面白さへの気付きが広がると考える。3つ目は、似顔絵カードを比べることである。単元の始めにかいたカードと選んだカードを比べることで、単元を通して学びが深まったことが分かるようにする。

8 単元の指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準 (評価方法)
【本質的な問い】				
○お話を具体的に想像することのよさは何だろうか。				
【単元を貫く問い】				
○文章のどの部分をよく読んだら、みきの表情が想像できるのだろうか。				

一	1 2	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の見通しをもつ。 登場人物を捉え、大体の内容を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や言語活動について共有する。 登場人物、主な出来事、結末などを捉えながら読むようにする。 教師の範読を聞いて、似顔絵カードをかかせることで、単元の最後で自身の変容が分かるようにする。 	
二	3 4	<ul style="list-style-type: none"> 表情が分かる言葉を考える。【比べる】 初めて出会ったものを見た時のみきの表情を具体的に想像する。【比べる】 	<ul style="list-style-type: none"> 意味や使われ方などを考えさせ、実生活と関連させる工夫を行う。 中心人物の表情に着目して、叙述をもとに登場人物の様子が想像できるようにする。 	
	5 6 (本時) 7	<ul style="list-style-type: none"> みきがナニヌネノンに聞いている表情を具体的に想像する。【比べる】 ナニヌネノンを見送るみきの表情を具体的に想像する。【比べる】 誰にも話さない理由を具体的に想像する。【比べる】 	<ul style="list-style-type: none"> 考えの根拠となる叙述が全体で見えるように工夫する。また、全体で共有することで、共通点や相違点が見え、多面的に物語の面白さに気付くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇〔思・判・表〕場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(ノート・発言) ◇〔態〕粘り強く場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして本の似顔絵カードを書こうとしている。(似顔絵カード)
三	8 9	<ul style="list-style-type: none"> 似顔絵カードを選び、気付いたことを書く。【比べる】 似顔絵カードを交流する。 似顔絵カードを紹介し、単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 似顔絵カードの内容を比較して書かせることで、自身の変容に気付くことができるようにする。 自分の考えが相手に伝わっているか確かめるために紹介した後に、読んだ感想をもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇〔知・技〕言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(ワークシート)

9 評価の具体

<p>評価規準 (思・判・表)</p>	<p>「おおむね満足できる」状況 (B)</p>	
<p>①場面の様子に着目して、②登場人物の行動を具体的に想像している。</p>	<p>一回目と二回目をくらべて 一回目と二回目をくらべてみたら、ようすをたくさんそうぞうしたから、くわしく書けました。それに、一回目のときには、こわがっているようすがおもしろかったけど、はじめはこわがっているようだったのに、どんどんなかよくなつて、さいごには出会ったこともたからものになつて、いるところがすきなで、二回目はさいごのばめんをえらびました。</p>	<p>一回目 すきなところ</p> <p>十月〇日 えらんだことば 「おそろおそろ近よると」 どんな顔? みきがこわがっている顔 その顔にしたりゆう 見たことないのりものに出会ったから不気味でこわいんだと思います。見たことないものに出会って、こわがっているのがおもしろくてすきです。</p> <p>十一月〇日 二回目 えらんだことば 「だれにも話していません。」 どんな顔? やさしい顔 その顔にしたりゆう はじめはナニヌネンにおどろいていたけど、なかよくなつてわかれるのがさみしくなつたみきは、②出会ったことやもらつた石はだれにも話したくないくらい、大切な思い出になつてそんなたからものがずつと心にあるからやさしい顔です。もし話してしまうと、しんじてもらえなかつたり、ばかにされたりしてすてきな思い出ではなくなつてしまうかもしれない。そうはしたくないからずつと心の中にとまっているんだと思います。</p>  

10 本時の学習 (6時間目/全9時間)

(1) 本時のねらい

場面の様子に着目して、登場人物の表情などを叙述と結び付けて具体的に想像することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 (方法)
<p>1. 学習の流れを確認し、音読をする。</p> <p>2. 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ナニヌネンを見おくるみきの顔はどんな顔だろうか。</p> </div> <p>3. 叙述を基にみきの表情を想像する。</p> <p>4. 考えを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元計画で本時の内容を確認し、ナニヌネンを見送るみきの表情を考えながら音読できるようにする。 ・教師の考え(「あー、やっと帰ってくれた。こわかった。」)を提示することで、児童の考えとの間にズレをつくり、場面の展開に即してみきの様子が変化していることを確認するとともに、課題につなげる。 ・叙述と結び付けて想像することができるように、根拠となる叙述に線を引いたり、書き方を提示したりする。 ・根拠となる叙述を見つけることに迷っている児童には、まずは似顔絵を考えるように促す。 ・表情を絵に表すことが難しい児童には、教師が描いた絵から選ぶことができるようにする。 ・叙述を基に想像することが難しい児童には、動作化や既習(似顔絵カード・掲示)を振り返るように促す。 ・描いた似顔絵を他の児童が描いた似顔絵と似ているもの、違うものに分類しながら黒板に貼り、根拠や気付きを交流することで、似た表情でも根拠や考えが違うなど、物語を想像する面白さやよさを感じることができるようにする。 ・これまでの場面の様子に着目できていない場合には、これまでの展開を振り返ったり結び付けたりすることができるような学習掲示をしたり、補助発問をしたりする。

<本時で扱う思考の方法>

【比べる】

手立て：友達のと自分の考えを比べて、共通点や相違点を見つけることができるように、児童の考えの根拠となる叙述が全体で見えるように本文を掲示して印をする。

- ・ぼくと似た顔だけど、選んだ言葉が違って、「ぎゅつとにぎったまま」って書いてあると、強い気持ちが伝わるから、また会いたって気持ちが大きいと思う。
- ・〇〇君が言ったように、私も、保育所の子と別れる時は寂しくて何度も手を振ったことがあるから、みきも同じ気持ちだってわかった。

5. 本時のまとめをする。

- ・全体交流をふまえてまとめを書くように声をかける。
- ◇〔思・判・表〕場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(発言・ノート)

- ・ナニヌネノンを見おくるみきの顔は、なみだが出そうな顔。なぜなら、「なんども手をふりました。」と書いてあるってことは、ナニヌネノンとわかるのがいやだと思ふ。わたしもほいくしよの子とわかる時はさびしくなんども手をふったことがあるから、みきも同じ気持ちだと思ふ。
- ・ナニヌネノンを見おくるみきの顔は、目がしっかりひらいた顔。なぜなら、「一生けんめい見つめました。」と書いてあるってことは、ナニヌネノンに、「ぜったいまた会おうね。」ってつたえたいんだと思ふから。

6. 学習を振り返る。

- ・表情を想像することや友達と考えを比べることのよさについて書くことができるように視点を示す。

- ・友だちと考えをくらべると、ナニヌネノンに出会って始めはきんちょうしていたみきが、見おくるときにはわかるのがさびしくて、また会いたって思ふくらいになっているのがわかった。
- ・みきの顔をそうぞうすると、みきになりきって考えているみたいでもっとお話を楽しく読めた。にがおえカードにかきたいところがふえた。

11 板書計画

⑤

ナニヌネノンを見おくるみきの顔は、
〇〇な顔。なぜなら・・・。

⑥

本文

みきは、なんども手をふりました。
みきは、ひらひらとうごくくり
ボンを、目でおいかけまし
た。
もらった小さな石を、ぎゅつ
とにぎったまま、
夕方のからすが、

みきは、なんども手をふりました。
みきは、ひらひらとうごくくり
ボンを、目でおいかけまし
た。
もらった小さな石を、ぎゅつ
とにぎったまま、
夕方のからすが、

⑦

にがお絵カードでしようかいしよう
「みきのたからもの」
はちかい
みみ
作

ナニヌネノンを見おくるみきの顔は
どんな顔だろうか。

くらべる

・さびしい
・まだいっしょに
いたい

一では「おそ
るおそる」

・つよい気持ち
・また会いた
いからゆめをか
なえるぞ！

・すごく長い間、
きえていつた空
を見ていた

ねがいがこめ
られた石